

北陸石仏の会々報

砺波市出町の豊受神祠

尾田 武雄

七月二十七日、県文化財保護指導委員の仕事である文化財パトロールで、砺波市本町（出町）にある「御旅屋の井戸」の調査に来た。この井戸は寛文四年（一六六四）加賀藩主前田綱紀が当地へ鷹狩りした際に、御膳水用に掘られたものである。この井戸の守り神として、豊受神祠が建てられたものである。

ちょうどこの日が祭日で、御本尊を拝見することができた。中央に彩色された不動明王、向かって右に秋葉権現、左に琵琶を持つ弁才天である。

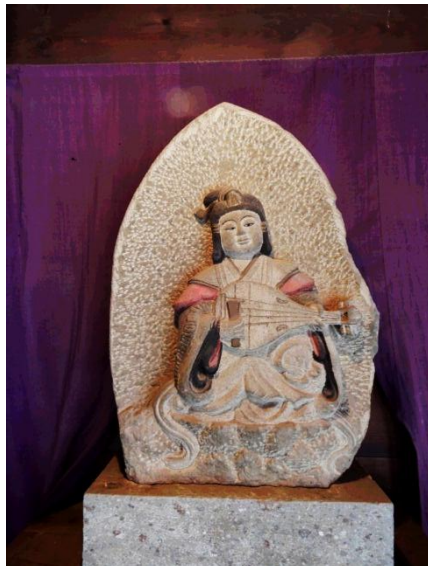
「神社明細帳」には豊受神祠とあり、祭神は豊受大神である。豊受大神は伊勢神宮の下宮にあたり、その分霊社なのであろう。住民は俗に「御旅屋の不動様」と呼ばれている。祭日に掲げられる提灯も「不動明王」である。この神祠は安政三年（一八五六）に創建され、明治十年に神祠据置とあり、石仏はこの明治十年に造立されたのである。作風は一生の間一千体の石仏を作った名工森川栄次郎作と思われる。



不動明王
弁才天



豊受神祠
秋葉権現



第52号
平成29年8月10日発行
編集と発行
北陸石仏の会
(日本石仏協会北陸支部)
代表 平井一雄
〒939-1315
富山県砺波市太田
1770 尾田武雄方
電話 0763-32-2772
振替 00740-2-11974
(年会費 3000円)

- ・ 砺波市出町の豊受神祠
- ・ 白心・檀心の六字名号塔
- ・ 白山信仰の石造物
- ・ 第54回例会報告
- ・ 第55回例会案内

白心・檀心の六字名号塔

平井 一雄

1、滑川市坪川の一里塚

一里塚は、近世初期に全国の主な街道の一里ごとに道の両側に築かれた円丘状の土盛で、その上には樹木が植えられ街道の目印となった。越中国内の北陸街道には、全部で23基の一里塚が築かれたが、現在は、朝日町境、富山市水橋、それに滑川市坪川と3基が残るのみである。

坪川の北側の塚は、最近の道路拡張工事により削平された。

昭和55年12月発行の『富山県歴史の道調査報告書 北陸街道』には「・

この塚は街道の左右にあつて、左つまり北側のものは約三メートルに約六メートルの土饅頭状をなし、右のものは高さ二メートル径数メートルの土饅頭状をなし。北側の土壇上に嘉永五年の名号塔と富玄隆と陰刻する川原石がある」とある。

2、「檀心」の六字名号塔

北側の塚の嘉永五年銘の名号塔は越中に点在する「徳本」「義賢」の名号塔の書体とも違うし、飛騨・美濃に点在する「播隆」の書体とも違う「檀心」固有の書体である。

嘉永五壬子一月成道焉

「南無阿弥陀仏」檀心 花押

3、滑川市柳原の「白心」六字名号塔

柳原地区の市道西側の御堂内には不動尊を中心に5体の石造物と御堂外に名号塔が1体安置されている。

・名号塔「南無阿弥陀仏」 高さ160 cm、幅87 cm 嘉永四■

・不動明王坐像 高さ134 cm、幅70 cm

由来

約180年前、無宿乞食を喜兵衛さんという人が、親戚の納屋に宿を取らせたところ村に住みつき、やがて村を出る前、大岩の不動明王のお姿を夢に見、その姿を立派に彫りあげ、今日まで柳原不動明王様と村人があがんでいる。また名号塔もこの無宿乞食がいつしよに彫ったといわれている。

参考文献 『北加積の石仏』昭和59年2月

4、上市町黒川の「白心」六字名号塔

上市町黒川「日枝神社」前に「松井川」「南無阿弥陀仏」「南無阿弥陀仏」と刻された三体の文字碑があり、中央の「南無阿弥陀仏」名号塔には「白心花押」の銘がある。 高さ120 cm 嘉永四亥五月

5、穴の谷の洞窟の「白心」行者

洞穴の場所は「黒川地内字穴の谷」にある。徳川時代の初め頃から少し知られていたようである。この地方は平野、山間を問わず森林、爵蒼として繁り天をおおうという有様であったから、洞穴の場所を知る人があつても誰も深く探究しなかった。故に人々は「蛇の穴」とか「善光寺穴」とか言っていた。

又今から百二十年ほど前、江戸時代の終わりごろ、美濃の国（今の岐阜県南部）本巢町から「白心」という行者がきた。初めのうちは、円念寺山（黒川村の上手の山）という手近な場所のほら穴で、座禅をくんでおつたが、近くに護摩堂の村へ通ずる道があり、たびたび人が通るもんだから心が散つてしかたがない。そこで白心は、黒川の村の人たちに、「どこかほかにもっと落ちついて修行のできる、いい場所がないものだろうか。」とたずねた。

伊藤助右工門という人や、そのほかの人たちが、「穴谷になら、いいほら穴がありますぞ。」というて教えたので、白心は、それからは穴谷に入り、三年と三か月の間そこで修行したという。

参考文献 『上市町誌』『上市のむかし話』

6、「檀心」と「白心」行者

「檀心」と「白心」の六字名号は書体も花押も同じであり、「嘉永五年一月成道焉」とあるから嘉永四年まで「白心」と名乗っていたが嘉永五年一月に「成道焉」と成道して「檀心」と名乗ったのではなからうか。

いづれにしても相当大きい名号塔を残しているからには相当の験力を持つ行者であり、大きな講が作られていたのではないかと思うがその伝承、記録が少ないのは残念である。

尚、『上市町誌』には「安政四年、美濃の人白心行者たずねきて、村人に請うて三年三カ月の間、この穴において仏学の研究に余念なく、また戒行に精進されたのである。」との記述があるが安政は嘉永の後の年号であり、石塔建立銘によって嘉永初年に美濃から黒川へ入ったと考えている。



▲坪川の一里塚（街道北）シ・H



▲坪川の一里塚（街道南）シ・①

滑川市坪川 北側一里塚 檀心名号塔

上の写真は、『富山県歴史の道調査報告書北陸街道』昭和55年12月発行より



上市町黒川 日枝神社前
白心名号塔



滑川市柳原 白心名号塔と
伝白心作不動明王



白山信仰の石造物

滝本 やすし

白山の祭神と本地仏

白山寺白山宮は伊弉冉命を祭神としていた。白山妙理権現と称し、十一面観音を本地仏とした。頂上奥宮の白山三所権現は：御前峰の祭神は伊弉冉命で、白山妙理権現と称し、本地仏は十一面観音。大汝峰の祭神は大己貴命で、大汝権現と称し、本地仏は阿弥陀如来。別山の祭神は菊理姫で、大行事権現と称し、本地仏は聖観音。

白山神社や白山の神を祀る神社は、越前や美濃ではほとんど伊弉冉を祭神としている。加賀や能登では伊弉冉を祭神としている神社や、菊理姫を祭神としている神社、菊理姫・伊弉冉・伊弉諾の三柱を祭神としている神社など様々である。また越中ではほとんどの神社が菊理姫を祭神としている。

今年には泰澄大師が白山を開山してから千三百年にあたり、関連の寺社では記念行事などが行われている。

①福井県あわら市後山 春日神社／白山妙理権現

春日神社拝殿の右手に、小さな木造の祠が建てられている。この祠は大正三年に字中垣地より春日神社境内へ移された白山神社で、伊弉冉尊を祭神としている。祠内には、地蔵と白山妙理権現の石像が納められている。

白山妙理権現は笏谷石に浮彫りされた美しい女性神の浮彫り立像で、蛇を乗せた盆を両手で持っている。伊弉冉尊の化身であり、字中垣地より春日神社境内へ移された白山神社の御神体である。角板型の板状で、もとは石祠の奥壁に彫られていたものと思われる。

②福井県福井市東天田 路傍／白山妙理権現

東天田路傍のコンクリートブロック製の小堂内に、日月の窓が彫られた石

祠が納められている。内部には、頭上に龍の首が乗った浮彫りの白山妙理権現が祀られている。

③福井県越前市中央一丁目 曹洞宗洞源寺／白山妙理権現

洞源寺門前に、三体の地蔵と共に笏谷石製の一基の石祠が並んでいる。石祠の奥壁内面には、三体の立像が浮彫りされている。向って左から、稲荷神、白山妙理権現、雨宝童子である。中央の白山妙理権現は、右手に剣を持ち、左手には鉢を持っている。体に龍が巻きつき、頭上には龍の首が乗っている。

④石川県金沢市本多町三丁目 曹洞宗長谷院跡／白山妙理権現

長谷院は木造十一面観音座像を本尊としていた。廃寺となり、本尊は龍國寺に移されている。

跡地には地蔵堂が残されており、その手前に白山妙理権現の石像が置かれている。舟光背型の凝灰岩製で、右手は施無畏印で、左手に羽団扇を持っている。光背に「下田氏／セメ」と刻まれている。

⑤石川県加賀市山代温泉 真言宗智山派薬王院温泉寺／白山妙理大権現

薬王院温泉寺の境内に、鎮守社である白山妙理大権現寶殿が建てられている。本殿内部には鏡や狛犬などと共に丸彫りの石造白山妙理大権現が祀られている。左手に弓を、右手に矢を持ち、狐の上に立っている。

⑥福井県坂井市三国町石丸 春日神社／「白山妙理大権現」

春日神社拝殿左手の小さな石祠内に、「白山妙理大権現」と刻まれた石標が納められている。左に「寛文四甲辰年」、右に「八月吉良辰」の銘が入っている。

⑦石川県津幡町俱利伽羅 高野山真言宗不動寺／十一面観音

俱利伽羅不動寺駐車場横の小堂内に十体ほどの石仏が祀られており、その

中に十一面観音がみられる。明治の神仏分離の際に北川家に譲渡されていたのだが、昭和四十年頃不動寺に戻された。角板型で、左手に未開蓮を持ち、岩上の蓮に座っている。この十一面観音は、俱利伽羅の国見峠に建てられている四社権現の一つである白山社の建立当初の御神体であったと考えられる。

⑧ 福井県福井市東郷二ヶ町 曹洞宗永昌寺／十一面千手観音

永昌寺本堂前に、白山神社の石造小祠が建てられている。内部には石造の浮彫り十一面千手観音立像が祀られている。光背の右下に「願主景■」、左下に「元龜四年三月十一日」と刻まれている。

⑨ 福井県坂井市三国町西今市 神明神社／白山権現、越智山大権現

神明神社入り口の鳥居の右手に、石祠や石仏などが並んでいる。

いちばん左の石祠は前面上部に角型の窓が三つ並んで開けられている。窓の下方中央に「白山権現」、その左右に「慶安五壬辰年／三月廿三日」と刻まれている。奥壁内面には、白山御前峰の本地仏である十一面観音座像が浮彫りされている。

いちばん右の石祠は「越知山大権現／安政四丁巳年九月吉日」と刻まれている。奥壁内面には、越智山三所権現の像が浮彫りされている。中央の窓の奥は十一面観音、左下の窓の奥は阿弥陀如来、右下の窓の奥は聖観音で、いずれも厚肉彫りの座像である。

⑩ 福井県坂井市三国町平山 春日神社／白山三所権現

春日神社境内の白山神社の社殿内に、白山三所権現が浮彫りされた石板が祀られている。全て座像で、中央に御前峰の本地仏である十一面観音、向って右に別山の本地仏である聖観音、左には大汝峰の本地仏である阿弥陀如来が彫られている。社殿内には白山三所権現が浮彫りされた石板がもう一基納められている。

⑪ 福井県福井市毛矢三丁目 白山神社／白山三所権現

白山神社本殿石祠の御神体で、中央に御前峰の本地仏である十一面観音、向って右に大汝峰の本地仏である阿弥陀如来、左には別山の本地仏である聖観音が彫られている。各尊像の下にはそれぞれ、御前峰、大汝峰、別山の山々が彫られている。

⑫ 福井県あわら市中川 加茂神社／白山三所権現

加茂神社境内に、白山神社の石祠が建てられている。内部には、十一面観音、聖観音、阿弥陀如来、地藏二体が祀られている。いずれも光背型の浮彫り像であるが、地藏二体は後に持ち込まれたものと考えられる。

⑬ 石川県津幡町山森 白山神社／菊理姫

白山神社本殿内に、二体の御神体が祀られている。向って左が尊名不明の石造菩薩形立像で、右が石造女性神立像である。彩色されているこの女性神像は祭神である菊理姫と思われる。比較的新しい石像であり、明治の神仏分離の際に本地仏が外へ出され、後に納められたものである。

もとの御神体であったと思われる十一面観音座像は、俱利伽羅の手向神社石殿内に、御神体である石造俱利伽羅不動の横に納められている。

⑭ 石川県白山市白峰 剃刀岩／泰澄大師

越前禅定道の剃刀岩にいくつかの石仏が残されている。首から上が故意に削り落とされた浮彫りの石仏で、駒型あるいは光背型の右下部分であろう。前面右に「施主久七」、下部に「越前國足…」の文字が刻まれている。三鈷杵と数珠を持っている。

⑮ 石川県白山市白峰 アンノ堂／泰澄大師

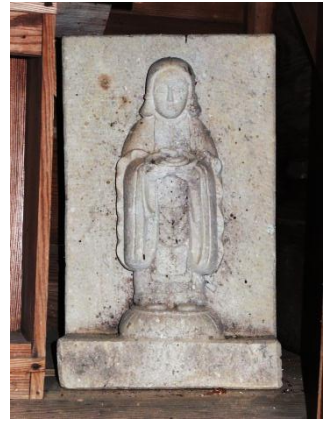
白山麓の通称アンノ堂に納められている丸彫りの石仏で、銘文は刻まれている。三鈷杵と数珠を持っている。



③稲荷神、白山妙理権現、雨宝童子



②白山妙理権現



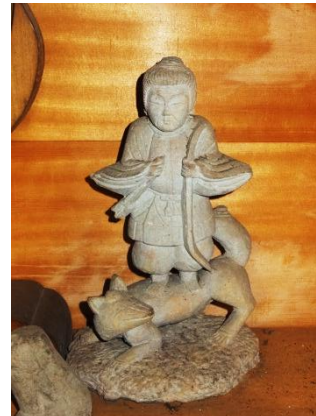
①白山妙理権現



⑦十一面観音



⑥「白山妙理大権現」



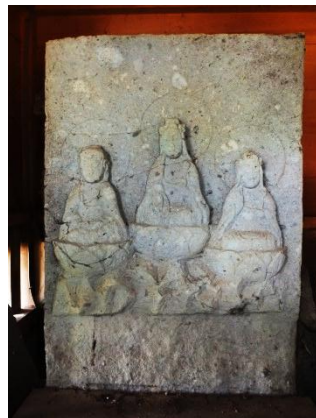
⑤白山妙理大権現



④白山妙理権現



⑪白山三所権現



⑩白山三所権現



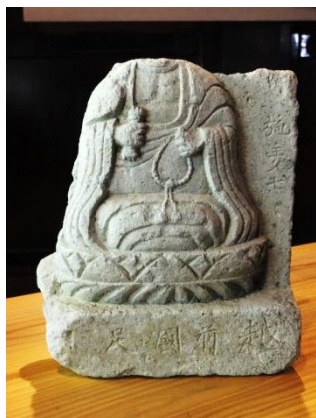
⑨白山権現(十一面観音)



⑧十一面千手観音



⑮泰澄大師



⑭泰澄大師



⑬菊理姫



⑫白山神社石祠

「金沢市のちょっと珍しい石仏」に参加して

酒井 靖春

平成二十九年五月二十一日、お天気にも恵まれた爽やかな日曜日となった。最初に訪れたのは、日本武尊のある安江八幡宮であった。赤黒い鳥居をくぐってお参りを済ませ、ここで記念写真を撮った。日本武尊は、大きくて平たく、彫りも迫力がある石造物で、赤戸室石がとても良い感じに思えた。

次に行った三宝寺では、猫の供養碑があり、線刻で猫が彫られており金谷奥俗名玉刻字されていた。金谷奥とは、金沢城のことであるとどなたかが教えて下さった。弘化二丙歳と横に刻字があり、良い形で残っていた。寺の奥には墓地があり、お墓の横には三尊像が設置されていた。その舟形の石造物が僧侶のような形をしていたのだが、残念ながらお顔がのっぺらであった。

普明院では、毘伽菩薩が、丸彫りの形の良い蓮台に座っている石仏だった。このような立派な作品を残している石工は、誰だろうか？私にとっては、大変興味深い石仏であった。

宗龍寺では、北辰星の他に不動明王三尊像や、花山法皇像などを見学した。北辰星は初めて目にするもので、これが何を意味するものなのか？もしかしたら、天体を地上に現したり、あるいは曼荼羅のように表したのか？と、色々と思いをはせていた。

観音院で見た狛犬は、富山ではあまり見かけない狛犬で、私は白山狛犬ではなかるうかと思った。また、気になったのは丸彫りの如意観音で、二肘のお姿が大変珍しい物と、興味深く拝見した。

少玄寺で拝見した七面大明神も、初めて見る石仏に感激した。

青雲寺にも西国三十三観音・花山法皇像があり、西国三十三観音を広めた花山法皇帝の功績がしのばれた。

椿原天満宮の狛犬は逆さ狛犬で、安政六年と石工松田七左エ門と刻字があ

った。逆さ狛犬では、明治時代や大正時代の石工の作品であれば、富山でも見かける事が出来るが、安政という古い時代の狛犬であり、その変遷を知る事が出来ると思った。さらには、一向一揆時代の砦跡ということ、それらしい石垣もあり、歴史を感じた。

長谷院跡では、白山妙理権現を見ることが出来たほか、蓮葉を持つ女神像波瀾文のある無縫塔など、どれも初めて見る石造物に、心が踊る思いだった。

真長寺では、住職さんからお話を聞いて頂いたあと、昼食を取った。写真の撮影許可も下り、私は撮影させて頂いた。中でも、不動三十六童子と不動明王に似ていた水神像に出会えた事に感動しながら撮影した。ここで相古誠一さんが参加され、加賀の飛翔狛犬という冊子を頂き、大感激であった。

この後は予定を変更し、近くの極楽寺に行った。ここでは徳本名号塔を見ることができた。

その後の浄安寺では、義賢名号塔と三十三観音を見た。この三十三観音像は、長野県の高遠石工の作品と似ているように感じた。

次は野田山墓地に行き、前田氏歴代藩主の墓や過信の墓、霊廟を見た。霊廟は高岡の瑞泉寺にある霊廟と様式が同じであるが、内側にも彫り物があり、福井の例会で見た、石祠の三十三観音を思い出した。

最後に宝円寺で三十三観音や、墓地の造石物を見に行った。墓地に無縁の石造物を集めたところに、円形光背のある観音像があり、高遠石工の作品に似てとても気になった。

今回の例会は、天気にも恵まれ、珍しい物や初めて拝見した物も多く、大変内容の濃いものであったと思った。



北陸石仏の会 第55回例会

— 布施谷の石仏めぐり —

平成29年9月17日(日)

参加費：6000円（バス・資料代）

集合場所：①JR金沢駅西口……………6時20分

②JR砺波駅南口……………7時00分

③大沢野文化会館……………7時40分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成29年9月7日(木)

案内：滝本やすし(石川県金沢市)

見学予定

- ◎魚津市布施爪 観音堂／西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、地蔵、青面金剛
- ◎魚津市布施爪 路傍／千手観音、虚空蔵菩薩
- ◎魚津市長引野 観音堂／西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、弘法大師
- ◎魚津市黒沢 共同墓地／阿弥陀如来、地蔵、線刻五輪塔ほか
- ◎魚津市大沢 路傍／雨宝童子
- ◎魚津市小川寺 天神山／四国八十八ヶ所霊場石仏、西国三十三ヶ所観音、善光寺式阿弥陀三尊ほか
- ◎魚津市小川寺 心蓮坊、光学坊、蓮蔵坊、千光寺観音堂／線刻六地蔵、線刻六観音、弘法大師ほか
- ◎黒部市朴谷 路傍／「大聖不動明王(寛明)」、青面金剛ほか
- ◎黒部市尾山 谷川家／青面金剛
- ◎黒部市田靱 観音堂／西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、普賢菩薩、不動明王
- ◎黒部市田靱 路傍／勢至菩薩(サンニャ様)、弘法大師、不動明王、青面金剛ほか
- ◎黒部市池尻 路傍／如意輪観音、青面金剛ほか

[諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。]



善光寺式阿弥陀三尊



西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、地蔵、青面金剛



勢至菩薩(サンニャ様)

平成29年度の会費を未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です